経　筒

【所　在　地】南さつま市加世田武田 17932　竹田神社
【種　　別】県指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】昭和 42 年３月 31 日

加世田市武田志風頭に通ずる道路の左側（武田下）源八堀に，自然石が建てられた高さ２ m 位の円墳状の経塚があった。昭和 29（1954）年に経筒・銅鏡・古銭・元豊通宝が各１個ずつ発見された。鑑定の結果，島津忠良の命により井尻神力坊が国家繁栄長久のために，諸国を巡回して 66 部の法華経を埋めさせた経筒のひとつであることがわかり，竹田神社に奉納された。

経筒とは経塚に仏教法典を埋納する時の容器で，銅製・陶器製・石製などがある。形も円筒・六角筒・八角筒・宝筒などがあり，蓋をかぶせるようになっている。変化の多い平安時代のものに比べて，鎌倉・室町時代のものは筒が短く銘文もあり，井尻神力坊が埋めたものも室町末期の弘治元（1555）年のもので，当時の形式に準じている。

発見された経筒は高さ 10.2cm，直径 4.6cm と小型で，銅に金のメッキが施され，ほとんど腐蝕なく原形を留めている。蓋の上面は七子地で，中央に牡丹の花と唐草様の葉を筋彫りにしてある。経筒の内部の経文は固形化して書跡を知ることはできないが，筒胴には次の文字が刻まれている。

十羅刹女　薩州之住神力坊
（梵字）奉納　大乗妙典一國六十六部　聖
三十番神　弘治元年今月吉日